目次

緒言……i

第一章　『源氏物語』の源泉と人物造型

第一節　藤壺の和歌――『伊勢物語』の受容の方法――……3

第二節　紫の上の和歌――『源氏物語』における和歌の機能――……32

第三節　朧月夜――歌詞改変のトリック――……54

第四節　源典侍の人物造型
1　源典侍と清少納言――衣通姫「わが背子が…」の歌の引歌方法……64
2　紅葉賀巻の源典侍と『蜻蛉日記』の作者――「ささわけば人やとがめむ…」の歌をめぐって……79
3　朝顔巻と『清少納言枕草子』……97
第五節　玉鬘
1　玉鬘十帖の方法と成立――玉鬘の運命と和泉式部、そして妍子……130
2　玉鬘十帖発端部分の方法――玉鬘と末摘花……155
第二章　『源氏物語』における梅花の役割
第一節　末摘花と梅花――末摘花邸の梅は白梅か紅梅か……175
第二節　二条院と六条院の梅花――紫の上と女三宮の対比……198
第三節　『源氏物語』続編の梅花と香り――正編と続編を繋ぐもの……222
第三章　『源氏物語』の音楽
第一節　和琴――よく鳴る和琴・よく鳴る琴……253

第二節　琴（きん）の意味するもの
1　五節の舞姫の起源と琴（きん）……271
2　光源氏の弾琴の意味……293
3　女三宮に伝授した「胡笳の調べ」……317
第四章　物語世界と殿舎――絵画資料としての『承安五節絵』――
第一節　弘徽殿の細殿――光源氏と朧月夜の出会いの場――……347
第二節　『承安五節絵』の流伝……373
第三節　『承安五節絵』詞書　本文と校異……398
第四節　冷泉為恭の『年中行事図巻』と『承安五節絵』……413
第五章　『源氏物語』から『無名草子』へ――物語世界の継承――
第一節　『無名草子』の諸本についての覚書……429
第二節　いとぐちの部分の虚構の方法……446

第三節　老尼について……466
第四節　老尼はなぜ最勝光院に立ち寄ったか……477
第五節　女性論――説話の摂取と受容を中心に――……491
第六節　『無名草子』における「捨てがたし」について――『源氏物語』からの継承――……514
結語……541
初出一覧……545
索引（書名／人名／事項）……（左開き）1